

研究成果展開事業  
大学発新産業創出プログラム(START)  
大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援

令和3年度補正予算評価結果

令和6年5月31日  
国立研究開発法人科学技術振興機構

<目次>

1. 制度概要 .....	2
2. 評価の目的 .....	2
3. 評価の概要 .....	2
4. 総合評価結果のランクと基準 .....	2
5. 評価結果 .....	3

<対象プラットフォーム名>

- ・ Greater Tokyo Innovation Ecosystem(GTIE)
- ・ Tokai Network for Global Leading Innovation(Tongali)
- ・ 京阪神スタートアップ アカデミア・コアリション(KSAC)

## 1. 制度概要

本支援は、スタートアップ・エコシステム拠点都市において、GAPファンドの充実など事業化に向けた起業活動支援やそのための活動の場の整備等、大学等におけるスタートアップ創出機能の更なる強化を目的として、令和3年度第1次補正予算の「地域産学官連携科学技術振興事業費補助金」によって実施された。

## 2. 評価の目的

本評価では活動の実施状況や成果・課題を明らかにし、今後の成果の展開及び取組の改善に寄与することを目的とする。

## 3. 評価の概要

### (1) 評価者

大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援委員会

### (2) 評価方法

報告書の査読及び面接(プレゼンテーションによるヒアリング・質疑応答)

### (3) 評価の観点

プログラム実施項目である以下①～③について、それぞれ「ビジョン・目標に対する成果」「取組内容」「課題分析と今後の対応方針」の観点で評価した。

- ① 全体(総合)
- ② 起業活動支援プログラムの運営
- ③ 起業環境の整備

## 4. 総合評価のランクと基準

総合評価のランクと基準は、以下の通り。

総合評価 ランク	基準
S	特に優れた成果があり、今後のスタートアップ・エコシステムの形成・発展が特に期待できる。
A	十分な成果があり、今後のスタートアップ・エコシステムの形成・発展が期待できる。
B	一部不足があるが、概ね一定の成果があり、今後の改善努力によりスタートアップ・エコシステムの形成・発展が期待できる。
C	成果が不十分であり、今後のスタートアップ・エコシステムの形成・発展には相当の改善努力が必要である。

## 5. 評価結果

5-1	Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)	.....4 頁
5-2	Tokai Network for Global Leading Innovation (Tongali)	.....6 頁
5-3	京阪神スタートアップ アカデミア・コアリション(KSAC)	.....7 頁

## 5-1 Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE) プラットフォーム

プラットフォーム名	Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)
主幹機関	東京大学 【総括責任者】執行役・副学長 染谷 隆夫 【プログラム代表者】産学協創推進本部副本部長 各務 茂夫 早稲田大学 【総括責任者】研究推進担当理事 若尾 真治 【プログラム代表者】リサーチイノベーションセンター統括所長 柴山 知也 東京工業大学 【総括責任者】理事・副学長 渡辺 治 【プログラム代表者】研究・産学連携本部 イノベーションデザイン機構 機構長 辻本 将晴
共同機関	筑波大学、千葉大学、LINK-J、東京農工大学、お茶の水女子大学、神奈川県立保健福祉大学、CIC Toranomom、渋谷スクランブルスクエア (SHIBUYA QWS)、横浜国立大学、横浜市立大学、東京医科歯科大学、慶應義塾大学、東京都立大学、芝浦工業大学
評価対象の活動期間	2022年 6月 15日～2023年 3月31日

### 1. 活動概要 (GTIE 補正報告書より引用)

2021 年度に行った GTIE サーチファンド (GSF) の内容の検討を踏まえつつ、趣旨やターゲット研究者層に応じた3つのカテゴリーから構成されるギャップファンドプログラムを企画し、関連するトレーニングプログラム (東大: 研究者向け、早大: 基礎的内容の提供) の提供等とあわせ、中間キャンプからデモデイの実施に至るまでファンドの運営を行い、大学発ディープレック系スタートアップの質の強化を図った。運営にあたっては、ベンチャーキャピタルとの組織的な提携を介してビジネス実証活動の質を保証し、出資等を介した起業や経営者候補の探索、海外での事業展開の可能性を高めることも意識したプログラムとした。

### 2. 評価結果.

総合評価: B

### 3. 総合評価結果

ギャップファンドについて、当初からグローバル市場を視野に入れた海外実践プログラムが設定されており、ユニコーン創成に期待が持てる。提案の審査方法、海外の実務者を含む有識者審査体制をとっている点は適切・妥当なもの認められる。また、多岐にわたる分野における案件採択、海外実践プログラムの案件に対して、積極的なメンターとの接触、海外を含む諸活動を実施した点は高く評価する。

一方で、プラットフォームの有するポテンシャルはもっと高いと考えており、研究提案実績のない機関から提案を得られるよう、また提案実績のある機関でも提案数を増やせるよう結果を分析し、工夫・改善を検討して欲しい。提案数を増やす上では、プラットフォームとして各大学における申請につながってい

ないシーズの発掘、ならびに特許出願の促進が重要である。

プラットフォームにおいて、社会実装からベンチャーの創出に繋がり、世界へ羽ばたいていくというイメージができている人をより増やすこと。今後、起業による新しい時代作りへの高揚感を全体にアピールし、採択された案件が飛躍的に成長することでスタートアップとして価値が拡大されることを期待する。

## 5-2 Tokai Network for Global Leading Innovation (Tongali) プラットフォーム

プラットフォーム名	Tokai Network for Global Leading Innovation (Tongali)
主幹機関	名古屋大学 【総括責任者】 東海国立大学機構名古屋大学 機構長 松尾 清一 【プログラム代表者】 副総長／学術研究・産学官連携推進本部長 佐宗 章弘
共同機関	豊橋技術科学大学、名古屋工業大学、岐阜大学、三重大学、名城大学、中京大学、藤田医科大学、名古屋市立大学、岐阜薬科大学、愛知県立芸術大学、相山女学園大学、光産業創成大学院大学、愛知県立大学、静岡大学、浜松医科大学、南山大学、豊田工業大学、金城学院大学、中部大学
評価対象の活動期間	2022年6月15日～2023年3月31日

### 1. 活動概要 (Tongali 補正報告書より引用)

本補正予算では、起業活動支援プログラムの一つである GAP ファンドプログラムの本格的実施に向けて取り組んだ。SCORE 事業で実施した起業支援プログラムをブラッシュアップし、ステージや分野に対応した GAP ファンドプログラムを実施した。シーズの発掘には仮説検証プログラムと Demo Day を行なった他、これまでの少額規模で採択された者に本プログラムへの応募を推奨することにより、プラットフォーム内にてハンズオン支援を推進する体制を構築した。また、各大学における相談窓口の設置や起業マニュアルの更新、必要なルールの整備等の起業環境も着実に拡充しており、適するテック発スタートアップが起業しやすい環境づくりを行った。

### 2. 評価結果.

総合評価:A

### 3. 総合評価結果

Tongali プラットフォームのギャップファンド運営は適切な規模および件数が設定されており、緻密に練り上げられていると言える。独自の仮説検証プログラムを考案実装し、ギャップファンドの募集対象を仮説検証プログラム実施者とする事で、案件数のみならず案件の質向上にも寄与している。仮説検証プログラムから採択後の各課題へのハンズオンを充実化するモデルは、他のプラットフォームにも展開できる有効なスキームであると考え今後ギャップファンドで採択した案件が成長し、プラットフォームを象徴するスタートアップとして価値拡大していくことを期待する。

### 5-3 京阪神スタートアップアカデミア・コアリションプラットフォーム

プラットフォーム名	京阪神スタートアップアカデミア・コアリション
主幹機関	京都大学 【総括責任者】 理事(産官学連携担当) 澤田 拓子 【プログラム代表者】 成長戦略本部 本部長 室田 浩司
共同機関	大阪大学、神戸大学、大阪公立大学、大阪工業大学、関西大学、近畿大学、京都工芸繊維大学、京都府立大学、立命館大学、同志社大学、龍谷大学、京都先端科学大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西学院大学、甲南大学、大阪産業局、京都知恵産業創造の森
評価対象の活動期間	2022年 6月 15日～2023年 3月31日

#### 1. 活動概要 (KSAC 補正報告書より引用)

令和3年度補正予算での活動としては、2021年度のSCORE事業に続く「起業活動支援プログラムの運営」と、スタートアップ創出に必要とされる「起業環境の整備」に取り組んだ。

「起業活動支援プログラムの運営」ではGAPファンドの公募を実施し、27件の研究開発課題を採択。専任支援人材によるハンズオン支援を提供し、現時点で採択課題から4社のスタートアップを創出している。

「起業環境の整備」では、ソフト、ハード両面での環境整備を進め、ソフト面では、研究者などからの起業相談に対応すべく、一部の参画機関では起業相談窓口を設置。ハード面ではSCORE事業で整備した起業環境整備拠点の利活用の活性化に注力した。

#### 2. 評価結果

総合評価:A

#### 3. 総合評価結果

起業支援プログラムについては、論文等に基づく研究開発課題の発掘や数多くの研究者との起業に向けた面談など、着実に運営を進めており、研究開発課題の申請数を伸ばしている点は評価できる。一方で、申請数はまだ伸び代があるため、関西圏におけるプラットフォームの認知度を向上させ申請数の更なる増加に期待したい。また、ジェンダーバランスも意識した審査体制の構築も必要である。

各大学の専任支援人材に対して事業化勉強会や人材交流会を多数開催していることや、起業相談窓口連絡会のメンバーを拡充して原則毎月開催していることは評価できるが、相談窓口は各機関に設置されることが基本であるため、早急に設置する方向での検討が望まれる。

プラットフォームにおいて、社会実装からベンチャーの創出に繋がり、世界へ羽ばたいていくというイメージができている人をより増やすこと。今後、起業による新しい時代作りへの高揚感を全体にアピールし、採択された案件が飛躍的に成長することでスタートアップとして価値が拡大されることを期待する。